

保健学科

看護学専攻 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康と生活を支援することができるよう、「新入生ゼミナール」「環境科学群」などの共通教育科目や、「健康科学概論」₁、「リハビリテーション概論」₁、「生命倫理学」₁、「臨床心理学」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「人体の構造と機能（解剖学）」₁、「人体の構造と機能（生理学）」₁、「人体構造機能学実習」などの授業を通して全人的な視点を修得する。

2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」₁、「医療社会学」₁、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「人体の構造と機能（症候学）」₁、「臨床診断治療学」₁、「看護学概論」₁、「成人看護学概論」₁、「成人看護健康論」₁、「老年看護学概論」₁、「小児発達看護学概論」₁、「小児発達健康論」₁、「母性看護学概論」₁、「母性看護健康論」₁、「精神看護学概論」₁、「精神看護健康論」₁、「実践保健統計」などの授業を通して、看護および保健・医療の基礎としての概念を学ぶ。

3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」₁、「栄養学」₁、「病理病態学」₁、「微生物と感染」₁、「遺伝と病気」などの保健学科共通科目を設置している。看護専攻専門科目としては、人体の解剖や生理に関する基礎科目、「薬理学」に加え、「看護学概論」₁、「コミュニケーション方法論」₁、「看護方法論」₁、「看護管理論」₁、「成人看護方法論」₁、「がん看護」₁、「老年看護方法論」₁、「小児発達看護方法論」₁、「母性看護方法論」₁、「ヒューマン・セクシャリティ」₁、「親子関係論」₁、「精神看護方法論」₁、「在宅看護学概論」₁、「在宅看護方法論」₁、「公衆衛生看護学概論」などの各看護領域の科目および関連領域の医学的知識を修得する科目、並びに「看護学実習」₁、「統合実習」を通して、看護師としての知識・技術を修得する。また、さらに選択によって、「公衆衛生看護支援論」₁、「学校・産業看護論」₁、「疫学・保健統計」並びに「公衆衛生看護学実習」等を行うことにより保健師としての知識・技術を修得し、「助産学概論」₁、「助産診断・技術学」₁並びに「助産学実習」₁等を行うことにより助産師としての知識・技術を修得する。

4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を修得するため、「新入生ゼミナール」などの共通教育科目や、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。各領域での看護の専門知識・技術の修得と共に専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。

5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文科学群」₁、「社会科学群」₁などの教養科目や、「国際医療協力論」などの保健学科共通科目を設置している。看護学専攻専門科目としては、「国際看護論」₁などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。

6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、さまざまな教養科目を設置しており、選択することができる。また看護学専攻専門科目としては「看護研究概論」₁、「看護教育学」₁、「看護研究」₁などを通して、主体的な問題解決能力を修得する。

検査技術科学専攻 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1．生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「新入生ゼミナール」、「環境科学群」などの共通教育科目や、「健康科学概論」、「生命倫理学」、「臨床心理学」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「臨床医学総論」などの授業を通して全人的な視点を習得する。

2．保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「人体情報学」、「疾病の原因と発生機序」、「臨床検査解析学」、「病理病態学」などの授業を通して、科学的根拠に基づいた臨床検査の在り方を学ぶ。

3．保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」、「救急蘇生学演習」などの保健学科共通科目を設置している。基礎医学科目としては、「生理学」、「系統解剖学」、「組織学」などや専攻専門科目としての「生理機能検査学」、「循環機能検査学」、「遺伝子検査学」、「病原体検査学」、「免疫検査学」、「血液検査学」、「病態化学検査学」、「病理検査学」などとそれらの実習科目を通じて、臨床検査技師としての感性や知識・技術を習得する。

4．保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を習得するため、「新入生ゼミナール」などの共通教育科目や「チーム医療演習」、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「臨床検査総論Ⅰ」、「臨床検査総論Ⅱ」、「臨床検査管理学」、「検査情報の処理と管理」および「臨地実習」などの授業を通して、医療専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。

5．文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文科学群」、「社会科学群」などの教養科目や、「国際医療協力論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「ゼミナール」での英文論文の抄読などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。

6．多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然科学群」などの教養科目や「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「卒業研究」や「ゼミナール」などでの演習活動を通して、能動的な問題解決能力を修得する。

理学療法学専攻 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1．生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「新入生ゼミナール」、「環境科学群」などの共通教育科目や、「健康科学概論」、「リハビリテーション概論」、「生命倫理学」、「臨床心理学」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法概論」、「理学療法概論」などの授業を通して全人的な視点を習得する。

2．保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法評価法」、「運動器疾患の理学療法」、「神経疾患の理学療法」、「卒業研究」等の授業を通して、科学的根拠に基づいた理学療法（Evidence-based Physical Therapy、EBPT）の概念と手法を学ぶ。

3．保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」、「救急蘇生学演習」などの保健学科共通科目を設置している。理学療法学専門科目としては、「生理学」、「系統解剖学」、「運動学」などの基礎医学科目、「整形外科学」、「臨床神経学」などの臨床医学科目、「運動器疾患の理学療法」、「神経疾患の理学療法」などの専攻専門科目を通して、理学療法士としての感性や知識・技術を習得する。

4．保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を習得するため、「新入生ゼミナール」などの共通教育科目や「リハビリテーション概論」、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法概論」、「地域理学療法」などの講義や、「臨床基礎実習」、「臨床実習」などの実習を通して、専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。

5．文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文科学群」、「社会科学群」などの教養科目や、「国際医療協力論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「卒業研究」での英文論文の抄読などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。

6．多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然科学群」などの教養科目や「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法研究法」や「卒業研究」などでの演習活動を通して、能動的な問題解決能力を修得する。

作業療法学専攻 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「新入生ゼミナール」、「環境科学群」などの共通教育科目をはじめ、「リハビリテーション概論」、「生命倫理学」、「健康科学概論」、「臨床医学概論」、「臨床心理学」、などの保健学科共通科目を設けている。また、作業療法学の専門科目として「作業療法概論」、「社会生活自立支援論」、「作業療法見学実習」を設置し、専門領域の概要を通して臨床医学における全人的な視点を習得する。

2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設けている。また専門科目として、身体・精神・発達・老年領域ごとの「作業療法評価法」や、「基礎作業学」、「日常生活支援論」、「作業解析学実習」、「作業療法研究法」、「事例研究法」などを通して医療実践における作業療法学の概念と手法を習得する。

3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学」、「微生物と感染」、「病気と遺伝」、「救急蘇生学演習」などの保健学科共通科目を設けている。作業療法学専門科目としては、「生理学」、「組織学」、「系統解剖学」、「中枢神経解剖学」、「肉眼解剖学」、「運動学」、「人間発達学」、「内科学」、「整形外科学」、「精神医学」、「小児科学」、「臨床神経学」、「高次脳機能障害学」などの基礎・臨床医学科目を設けている。また、作業療法学専攻の専門科目として、身体・精神・発達・老年領域ごとの「作業療法治療学」、「義肢装具学」、「生活支援機器論」をはじめとした科目を通して、作業療法士としての感性や専門的知識、技術などを習得する。

4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるよう「新入生ゼミナール」などの共通教育科目を習得し、「リハビリテーション概論」、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を加えた総合的な学習の機会を設けている。専攻専門科目としては、「基礎作業学実習」、「臨床実習・・・」などの臨床実習を通して、専門職としての自己責任を自覚したチーム医療の実践メンバーとしての協同活動の理念と実際について習得する。

5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文科学群」、「社会科学群」などの教養科目や、「国際医療協力論」、「保健・医療・福祉政策」などの保健学科共通科目を設けている。「地域作業療法学」などの専攻専門科目を通じてより広い視野で保健・医療活動について学ぶ。

6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然科学群」をはじめとする教養科目や、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策」などの保健学科共通科目を設けている。専攻専門科目としては、「作業療法研究法」、「事例研究法」、「認知障害治療学」、「身体障害特論」、「精神障害特論」、「発達障害特論」などを通して、作業療法士としての能動的な問題解決能力を習得する。